

1 自己評価の結果と改善方策

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	(1)学校のようにわかるように、行事や学校の出来事等を、ホームページに掲載した。更新頻度は、ほぼ毎日と言ってもよい。また、校長の考えを伝える校長ブログも、ほぼ毎日更新されている。本校が情報を積極的に発信していると考える職員、保護者の割合は、それぞれ、82%, 75%である。 (2)保護者向け、地域向けに、学期に2回程度、学校だよりを発行した。地域向け学校だよりは、町会長宅に届け、そこから各家へ配付していただいている。 (3)管理職が、地域の行事や地区中学校長会等に積極的に参加し、教育実践の周知を図った。 (4)開校1年目の本校であるが、本校の将来像について、7月に職員向けアンケートを実施した。普通科生徒にボランティア活動を推進し、福祉マインドを身につけさせるための方策や教育課程の在り方等、出された貴重な意見をまとめたものを職員会議で配付し、本校の将来像について話し合い、共通理解をもった。 (5)生徒が生き生きと学校生活を送っていると考える職員の割合は、61%であった。松戸向陽高校に入学させてよかった、入学してよかったと考える保護者、生徒の割合は、それぞれ、83%, 58%である。 (6)環境健康部職員が、定期的に施設設備の点検を行い、破損箇所、危険箇所の把握に努めた。 (7)生徒が身の周りにおける危険に注意をはらっていると考える職員、保護者の割合は、それぞれ、21%, 72%であり、身の周りにおける危険に注意をはらって生活していると答えた生徒の割合は、61%である。 (8)学校からもらったプリントをいつも保護者に渡していると答えた生徒の割合は、46%と低い。学校評価保護者向けアンケートの回収率は、78%であった。 (9)本校が校内の環境美化に取り組んでいると考える職員、保護者の割合は、それぞれ、88%, 74%であり、環境美化活動に熱心に取り組んでいると答えた生徒は、30%である。	(1)今後も、更新頻度はいまのペースを維持することにより、ホームページ、校長ブログで相乗効果をあげていきたい。また、どのページがよく閲覧されているのか等を分析することにより、いろいろな方にみていただけるような魅力あるホームページづくりを推進していく。 (2)今後も、学校だよりをとおして、本校のありのままのようす、生徒の活動等を積極的に伝え、保護者、地域の方々の理解を得ながら。連携して、本校生徒を育てていく。 (3)今後も継続して、地域の行事へ参加していく。 (4)本校の将来像を見据えながら、普通科生徒にも共生の心を育む教育活動を進めるため、さまざまな行事を企画し、実施していく。また、本校にあった、本校ならではの教育課程の編成に取り組んでいく。 (5)松戸向陽高校に入学してよかった、入学させてよかったと思えるような学校づくりを職員が一致団結して進めていく。そのためには、職員全体で、生徒の実態を把握し、本校生徒にあった、生徒指導、学習指導、進路指導を展開していく。 (6)文化祭時に、扉を取り外し保管する(運び入れる)時の置き方に問題があり、ガラスが破損したと思われるので改善したい。 (7)職員と生徒・保護者の認識にギャップがある。インターネット等での加害・被害の事案や性犯罪から生徒を守るという観点での安全注意等職員が心配すること等を、生徒・保護者に説明する必要がある。 (8)家庭にプリントが届かないという話をよく聞くが、担任が指導していくなかで、改善されるものと信じている。実際に保護者アンケート回収率が78%だったのも、担任の指導のたまものである。今後もあきらめることなく、根気強く対応していく体制をつくっていく。 (9)本校は環境美化に取り組んでおり、校内はとてもきれいである。今後は、清掃活動やボランティア活動をとおして、生徒の意識を高揚させたい。
学習指導	(1)本校は教材や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っていると考える職員、保護者、生徒の割合は、それぞれ、91%, 63%, 40%である。 (2)生徒から、授業中さわがしくなったときは、注意してほしいという意見が寄せられた。 (3)生徒が授業に意欲的に取り組んでいると考える職員、保護者、生徒の割合は、それぞれ、26%, 66%, 59%である。 (4)生徒の学習習慣が身についたと考える職員、保護者、生徒の割合は、それぞれ、4%, 39%, 30%である。 (5)生徒の学力が向上していると考える職員、保護者、生徒の割合は、それぞれ、29%, 52%, 38%である。 (6)普通科1学年の英語、数学で、中学時代の復習を含めた「学び直し」を実施している。また、1クラスを2分割した少人数指導や、複数の職員が担当するティームティーチングを実施している。 (7)6月に、指導課職員に、本校を訪問していただいた。また、5月と11月に公開授業を行ったが、訪れた保護者の数はそれほど多くなかった。学校見学等に来られた地域の方や中学生、保護者には、可能な限り、授業を参観してもらっている。授業錬磨で他校を訪れた職	(1)工夫したわかりやすい授業について、職員と生徒のギャップが激しい。ギャップを埋めるためには、職員が、生徒の実態を把握し、生徒にあった授業展開を進める必要がある。 (2)「さわがしい」の中身を、生徒が授業に参加しているが、その発言にルールが徹底されていないのか、あるいは授業自体が無秩序なのかを分析する必要がある。授業に対する指導の共通理解を職員全体で共有し、徹底させる必要がある。 (3)～(5)生徒が学習意欲をもって授業に臨み、学習習慣を身につけ、学力を向上させることは、本校の大きな課題である。 (6)わかる授業を目指して、「学び直し」を導入しているが、本校における「学び直し」とはいかなるものかを、職員全体で共通理解し、実施していく必要がある。また、可能な限り、少人数指導やティームティーチングを実施したい。 (7)指導課職員に、授業参観後にいただいた貴重な助言を、授業力の向上に生かしていく。公開授業は、教師の授業力を高めるために、とても有効なものである。また、同僚の授業をみたり、他校に出向き、授業参観することも大切なことである。本校で、公開授業を行った際、保護者にもっと来校してもらう手立てを考えたい。

	員は18名である。	
生徒指導	(1)遅刻指導がしっかり行われていると考える職員、保護者の割合は、それぞれ、91%、83%であり、遅刻しないように心がけていると答えた生徒は、78%である。しかし、1学年については、1学期578回から2学期1292回、2学年は、1591回から2066回、3学年は、1310回から2252回と、どの学年も、遅刻の回数は増加している。 (2)ルールやマナーを守る指導がしっかりと行われていると考える職員、保護者の割合は、それぞれ、90%、73%であり、ルールやマナーを守るよう心がけていると答えた生徒は、73%である。 (3)服装・頭髪等の整容指導がしっかりと行われていると考える職員、保護者の割合は、それぞれ、84%、77%であり、服装・頭髪等を整えるよう心がけていると答えた生徒は、67%である。 (4)生徒が相談しやすい雰囲気があると考え職員、保護者の割合は、それぞれ、82%、61%であり、困ったときに相談できる先生がいると答えた生徒は、35%である。 (5)5月の職員研修会では、スクールカウンセラーの話を聞いた後、「問題意識の共有化と生徒理解のために」というテーマのグループワークを行った。また、10月には、スクールアドバイザー派遣事業により、外部講師を招いて、「生徒の対人関係の調整に関する対応の工夫」というテーマで、生徒理解のための職員研修会を行った。 (6)本校の職員は生徒一人一人を理解するよう努めていると考える職員、保護者、生徒の割合は、それぞれ、91%、71%、32%である。	(1)～(3)遅刻指導やルール・マナーを守る指導、頭髪・服装等の整容指導について、職員はしっかりとした指導を行っていると考えており、保護者の多くはその指導を理解していただいている。また、生徒の多くは、守ろうと心がけていると考えていることがわかる。ただ、だらしない服装の生徒がいることは事実であり、遅刻の回数も多いことから、根気強い指導が必要である。 (4)本校は相談しやすい雰囲気があると、職員は考えているが、生徒はそう考えていない。「先生に相談したい。」という意見がありながら、「忙しそう」と思い相談できない生徒も多い。今後、さらに生徒一人一人に目を向けながら、教育相談委員を周知するとともに、定期的な面談週間の設定など、相談しやすい、相談できる校内体制を整備したい (5)生徒理解のための職員研修会は有意義なものとなった。今後も、職員参加型の職員研修会を企画し、実施していく。 (6)職員のほとんどは、生徒一人一人を理解するよう務めていると考えているが、生徒の多くはそうのように考えていない。厳しく指導される場面が多く、そのことを「ウザイ」と受け止める生徒に対して、生徒理解ということの本質が、優しさだけではなく、「壁となって導く大人」として、生徒の成長のために重要な役割を果たしていることを理解させる必要がある。一方で、職員は問題行動を起こす生徒の背景を理解しようとする努力や、反抗的な言動を繰り返す生徒への言葉がけや指導の方法も工夫し、柔軟に対応することも学ぶ必要がある。
キャリア教育	(1)生徒が進路実現のため努力していると考え職員、保護者、生徒の割合は、それぞれ、32%、56%、49%である。 (2)本校の進路指導は充実していると考え保護者、生徒の割合は、それぞれ、64%、50%である。 (3)進路ガイダンス等 進路適性検査(4/11) 1学年 進路のしおり読み合わせ(4/23) 全学年 進路ガイダンス(4/14,5/13,6/6,6/30) 3学年 就働く人の話を聞く(6/23) 1,2学年 職模擬面接(6/14) 3学年 作文模試(6/23) 3学年 仕事調査(夏季休業中) 1学年 就職指導(夏季休業中) 3学年 基礎力診断テスト(9/7) 1,2学年 進学模擬面接(10/3) 3学年 模擬体験授業(10/13) 1学年 就職未定者説明会(11/16) 3学年 大学特別講座(12/15) 3学年,1,2学年希望者 進路先見学(1/27) 2学年 (4)2月10日現在、卒業予定者226名のうち、186名の進路が内定している。内訳は、大学・短大に52名、専門学校に82名、民間企業に52名である。進路決定率は82.3%であり、目標としていた80%を超えることができた。 (5)進路希望調査結果や、進路適性検査結果について分析した資料をもとに、本校生徒の現状を共通理解する研修の場を設けた。	(1)福祉教養科の場合、保護者の91%、生徒の62%が、進路実現に向け努力していると答えている。今後、普通科生徒の意識改革をどのように行い、進路実現のため努力させていくかが課題である。 (2)、「みえる進路、あきらめない進路」をモットーに、しっかりと3年間の進路計画を立て、きめ細かなキャリア教育を行っているところである。生徒が、どのような面で進路指導が充実していないと考えるのかについて、つきつめていく必要がある。 (4)現在のところ、進路決定率が82.3%であり、これは、進路指導部を中心に、職員が生徒と向き合いながら、指導してきたたまものである。就職は本当に厳しい状況であるが、希望する男子は全員内定した。今後、残っている3名の女子の就職活動を支援していく。 (5)進路指導部できめ細かく分析した資料をもとに、職員研修の場がもてたことは有意義であった。今後、本校生徒が、就職及び進学するための試験に対応し、進路実現を果たすための努力をさせていく。そのためには、しっかりと基礎学力を身につけさせること、生活管理・健康管理の意識を保護者にも生徒にも持たせ、欠席や遅刻を減らし、学校を中心にした生活を送ることを徹底して指導する必要がある。